

平成30年12月期 決算説明会（連結）



清和中央ホールディングス



平成31年2月

市場環境について

米中の貿易摩擦、各国での保護主義の台頭に伴う景気減速懸念から、多少減速傾向は見られたものの、堅調に推移した。

国内も旺盛な建築需要、好調な輸出に支えられ、緩やかな回復が見られたが、国内鉄鋼需要は、過去の生産能力削減や人手不足、残業抑制などの要因もあり、各業界とも能力不足問題が露呈し、期待ほどの増加には至らなかった。

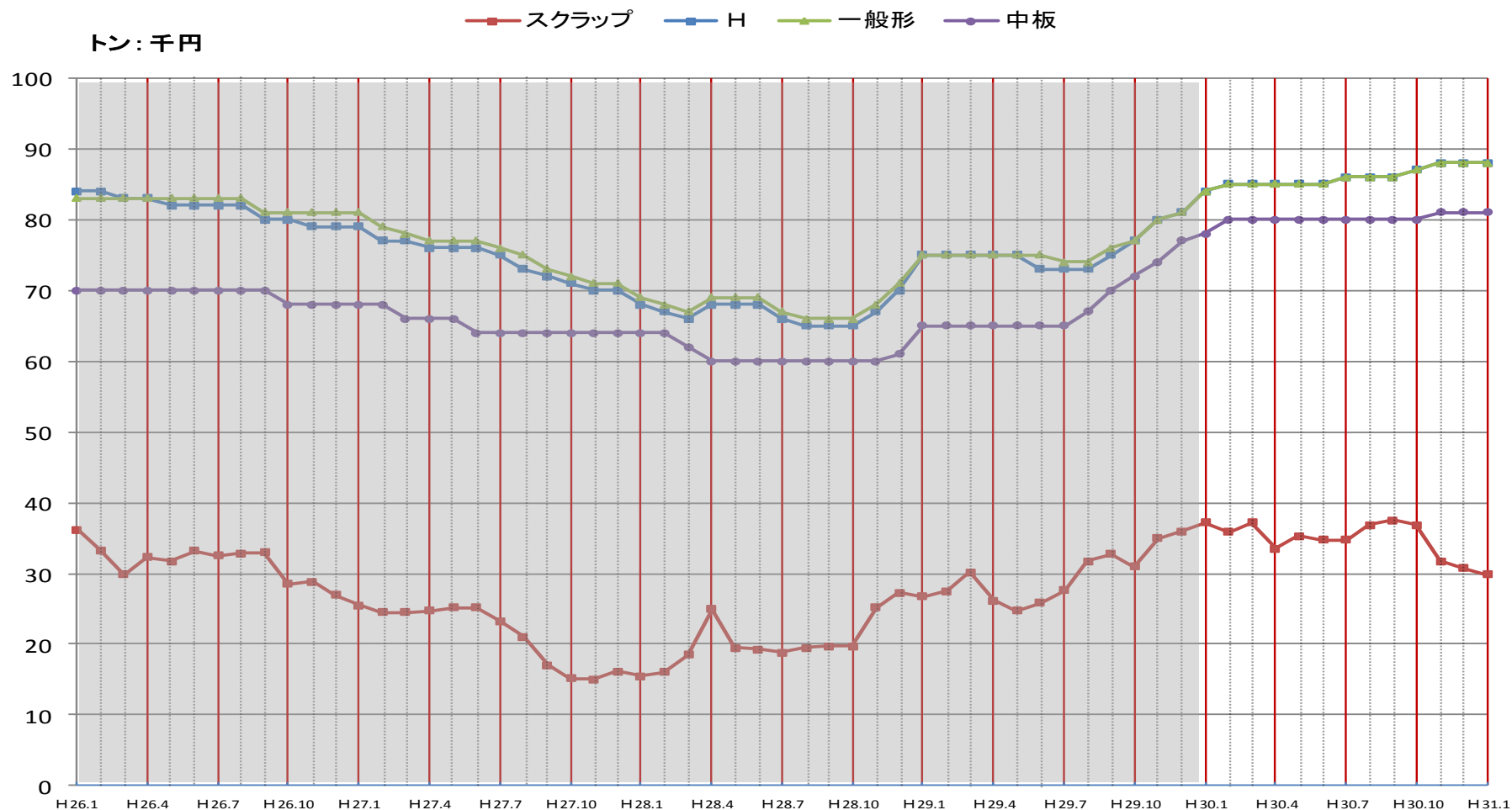
国内鉄鋼需要について

- | | | |
|-----|--------|---|
| 建設 | ・ 土木 | 公共投資減もあり微減 |
| | ・ 建築 | 住宅は微減
非住宅は再開発、倉庫、工場、ホテル等のニーズは高かったが、ゼネコン、ファブ等の施工能力問題より横這い |
| 製造業 | ・ 自動車 | 国内販売、輸出とも堅調に増加 |
| | ・ 建設機械 | 国内横這い、輸出は増加するも部品関連問題で大幅増にはつながらず |
| | ・ 工作機械 | 設備投資回復し国内・輸出とも増加するも部品関連問題で大幅増にはつながらず |
| | ・ 産業機械 | 微増 |
| | ・ 造船 | 微減 |

全体として横這い 0.05%増の見込み<6,289万トン⇒6,292万トン>

鋼材市況について

一昨年同様に春から夏場まで一時停滞したが、堅調な内外需要があり、メーカーの値上推進に後押しされ、年間を通すと大幅上昇となった。



グループ収益について

- ・ 中央鋼材の梁加工の稼働率UPで、収益改善となる。
- ・ 価格上昇に伴う販売スプレッド維持効果もあり、増収、営業利益増となるも、創立65周年記念関連支出他、人件費、営繕費等の増加要因があり好水準ではあるが前年を若干下回る。

個別業績① (単体)

	清和中央HD H30年12月期	主な項目
営業収益 百万円	684	・ 経営指導料収入・業務手数料収入 ・ 配当収入・不動産賃貸収入等
営業費用 百万円	433	
営業利益 百万円	250	
営業外収益 百万円	9	・ 受取利息等
営業外費用 百万円	7	・ 支払利息等
経常利益 百万円	253	
税前利益 百万円	253	
当期純利益 百万円	247	

個別業績②（子会社）

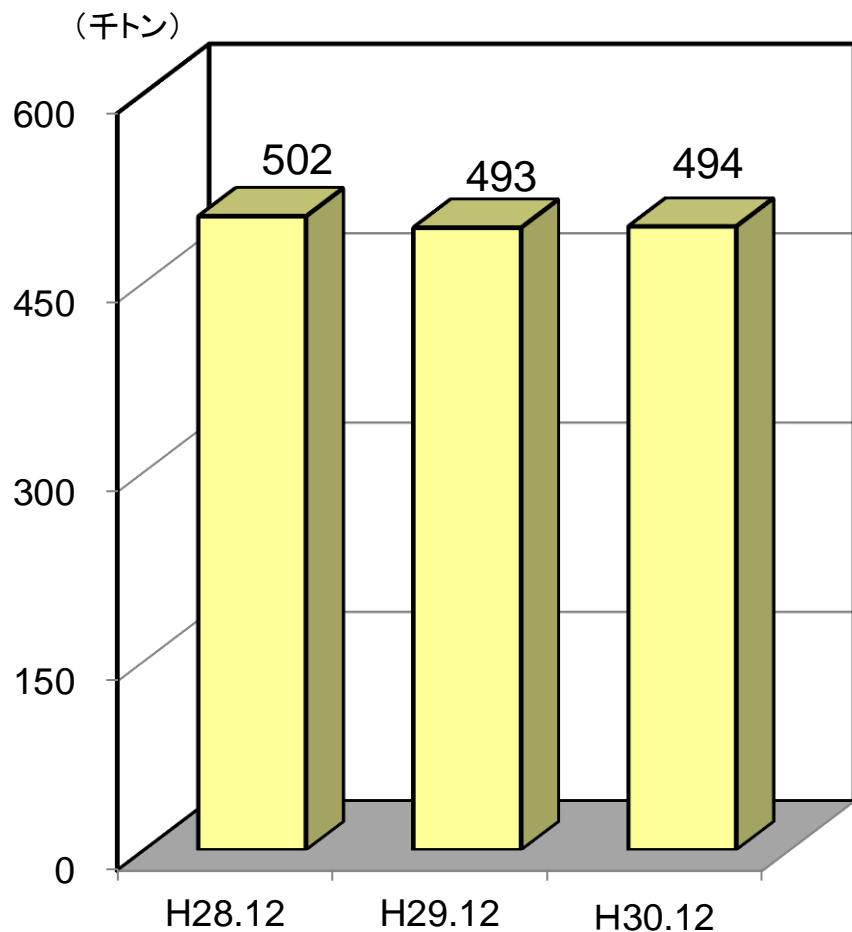
		清和鋼業 平成30年12月期	中央鋼材 平成30年12月期
売上数量	千トン	264	231
売上高	百万円	26,097	26,094
営業利益	百万円	551	663
経常利益	百万円	638	693
税前利益	百万円	638	693
当期純利益	百万円	423	430

経営成績推移（連結）

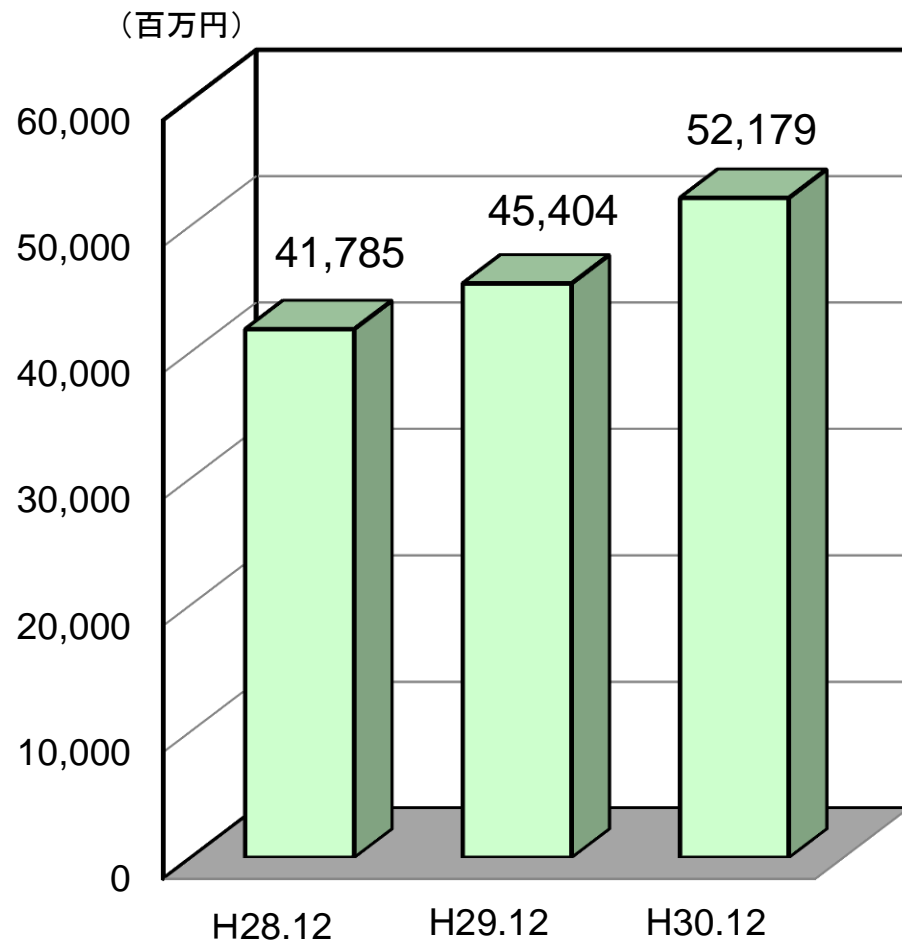
		平成28年12月期	平成29年12月期	平成30年12月期
売上数量	千トン	502	493	494
売上高	百万円	41,785	45,404	52,179
営業利益	百万円	931	1,363	1,221
経常利益	百万円	1,015	1,431	1,336
税前利益	百万円	1,015	1,431	1,336
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円	680	928	832

経営成績推移 (連結)

売上数量

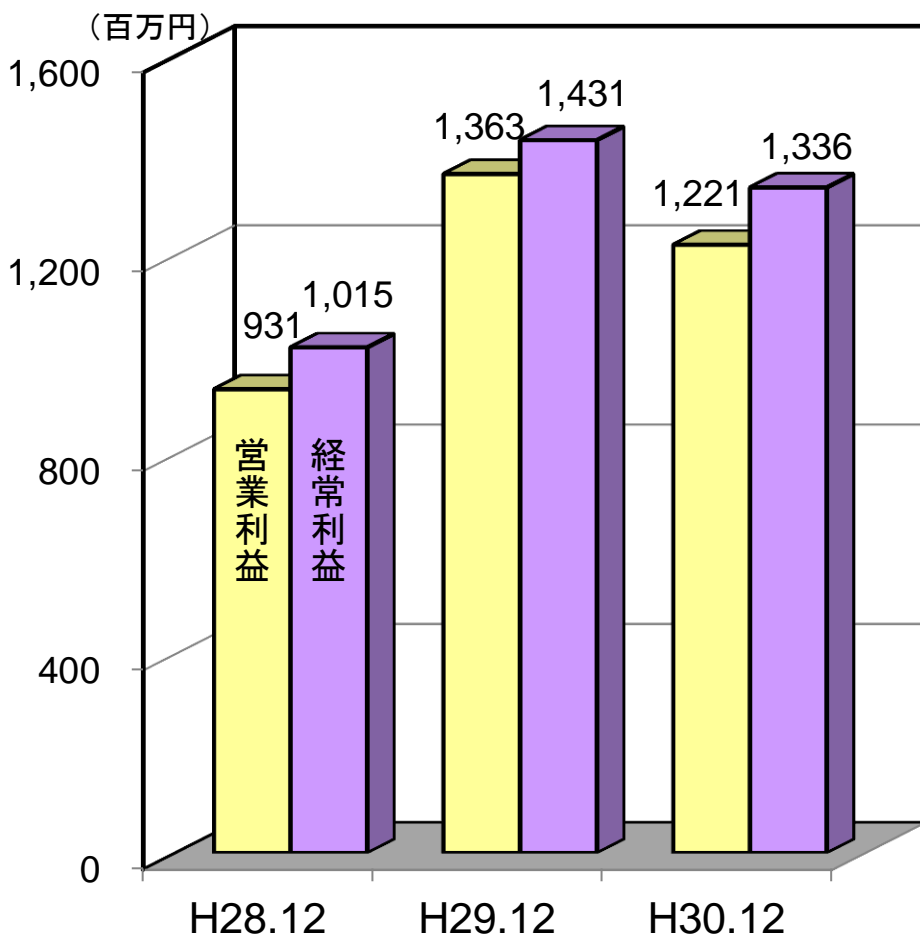


売上高

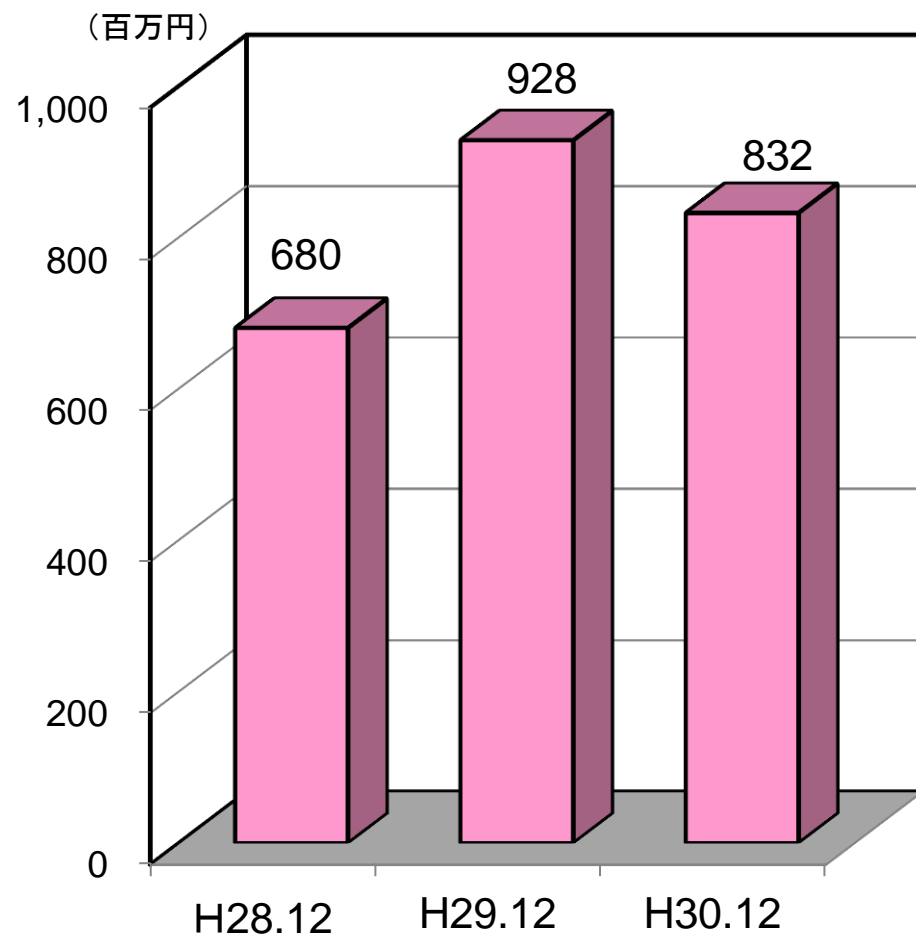


経営成績推移 (連結)

営業利益及び経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益

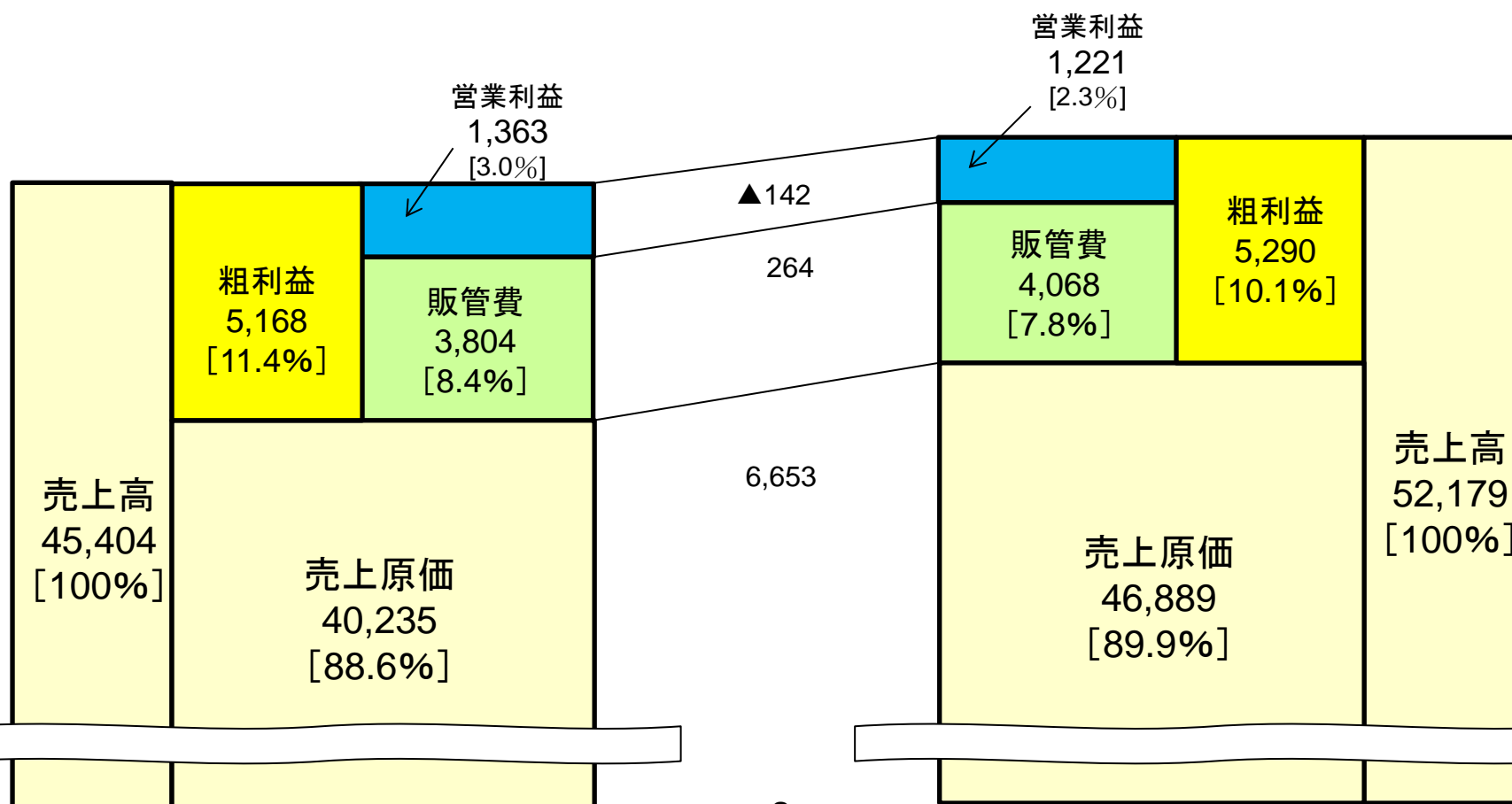


前年比増減分析 (連結)

単位:百万円
[]:売上高構成比率

平成29年12月期

平成30年12月期

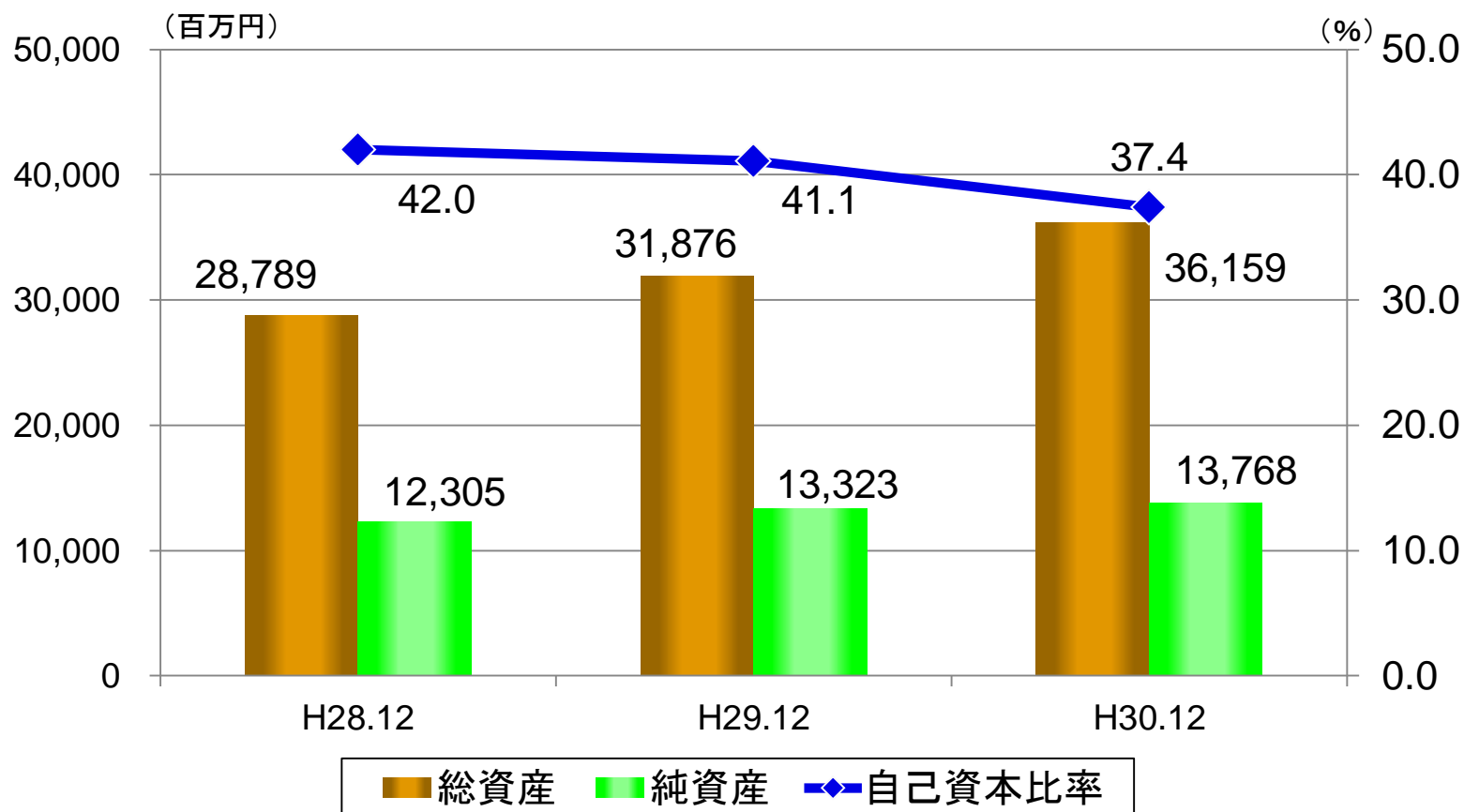


財政状態推移（連結）

	平成28年12月期	平成29年12月期	平成30年12月期
総資産 百万円	28,789	31,876	36,159
純資産 百万円	12,305	13,323	13,768
負債 百万円	16,483	18,553	22,391
自己資本比率 %	42.0	41.1	37.4

財政状態推移 (連結)

総資産・純資産・自己資本比率



1株当たり情報（連結）

	平成28年12月期	平成29年12月期	平成30年12月期
1株当たり純利益 ^円	173.79	237.09	212.52
1株当たり純資産 ^円	3,090.34	3,346.19	3,457.14

今期の見通しについて

世界 米中貿易摩擦、英国ブレグジット、中近東地政リスク等により減速が想定されるが、前記の動向次第では相当の悪化も懸念される。

国内 建設需要は、まだ旺盛な非住宅建築需要に支えられ、高位を維持。
製造業は、海外景気の減速から輸出中心に生産悪化懸念。

国内鉄鋼需要について

- 建設
- ・土木 消費税引き上げに伴う公共投資拡大、防災対策もあり増加
 - ・建築 住宅は賃貸住宅が減少し、全体も減少
非住宅は、落込み懸念は低いが施工能力問題やボルト手配難もあり、若干減少の懸念あり

製造業 海外景気減速に伴い、輸出産業中心に落込み懸念が大きい

その結果、内需合計は微減の想定（日本鉄鋼連盟見通し▲0.5%）も、落込み幅拡大懸念が大きい＜6,292万トン⇒6,263万トン＞

鋼材価格について

過去2年間通算の大幅な上昇となっており、原材料価格の低下傾向、海外マーケットでの軟調推移影響もあり、上昇余地なく下落懸念が大きい

収益について

梁加工は年間を通して、高水準・高収益を維持
鋼材価格値下りにより、販売スプレッドは縮小を想定

リスクについて

前述の海外要因の動向次第で、国内鉄鋼需要及び鋼材価格に大きな影響が出る事も考えられる

個別業績予想①（子会社）

	清和鋼業		中央鋼材	
	平成30年12月期 実績	平成31年12月期 業績予想	平成30年12月期 実績	平成31年12月期 業績予想
売上数量 千トン	264	264	231	226
売上高 百万円	26,097	26,888	26,094	25,278
営業利益 百万円	551	323	663	360
経常利益 百万円	638	393	693	376
税前利益 百万円	638	393	693	376
当期純利益 百万円	423	258	430	250

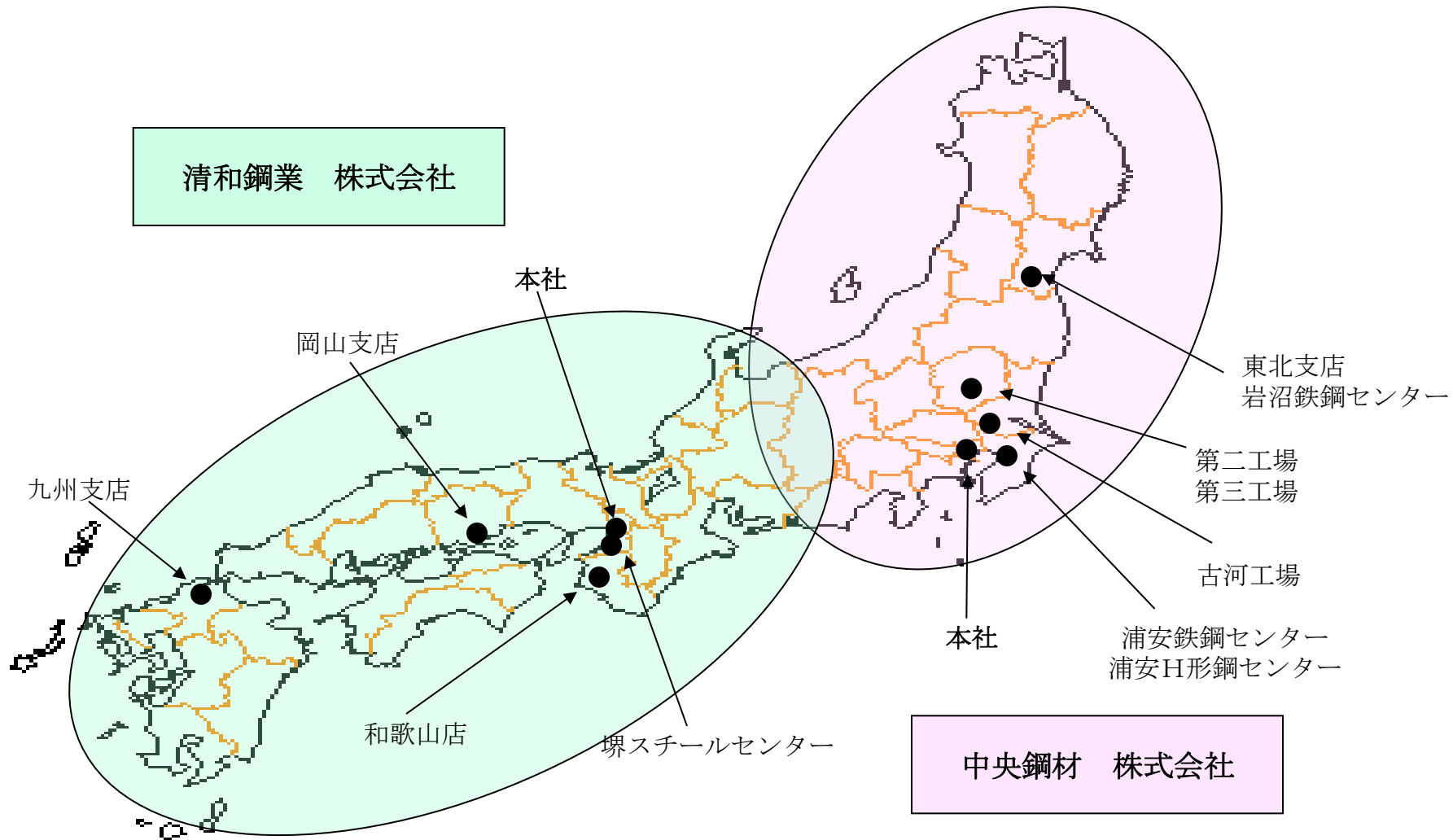
個別業績予想②（単体）

		清和中央HD	
		平成30年12月期 実績	平成31年12月期 業績予想
営業収益	百万円	684	706
営業費用	百万円	433	370
営業利益	百万円	250	335
経常利益	百万円	253	339
税前利益	百万円	253	339
当期純利益	百万円	247	308

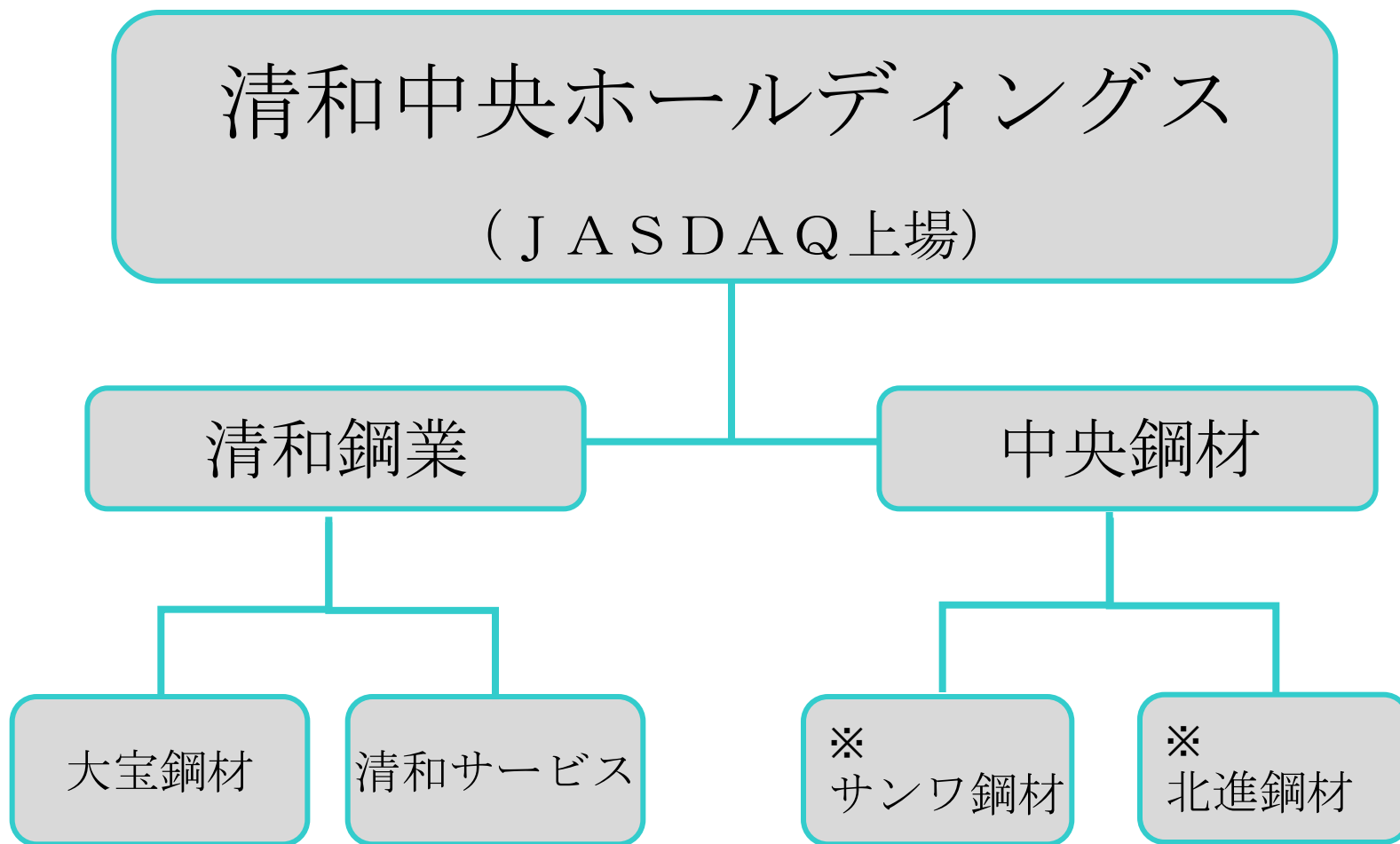
連結業績予想

	平成29年12月期 実績	平成30年12月期 実績	平成31年12月期 業績予想
売上数量 千トン	493	494	489
売上高 百万円	45,404	52,179	52,000
営業利益 百万円	1,363	1,221	770
経常利益 百万円	1,431	1,336	850
税前利益 百万円	1,431	1,336	850
親会社株主に帰属する 当期純利益 百万円	928	832	560

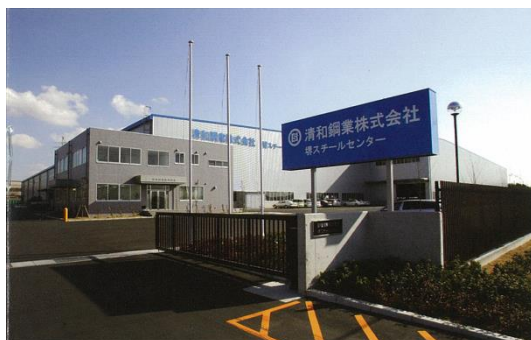
参考：グループ拠点



参考：グループ体制



※は非連結子会社



Holdings

清和中央ホールディングス



※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後、様々な要因によって異なる場合があります。